

令和7年度 自己評価表(年度当初)

鳥取県立倉吉東高等学校

中長期目標 (学校ビジョン)	1 主体的学習者の育成 2 21世紀をリードする人材の育成	今年度の重点目標	1 学校の魅力化・特色化の推進・発信と中高連携の強化 2 定時制教育のさらなる充実 3 生徒支援の充実と業務改善の取組
-------------------	----------------------------------	----------	---

○評価基準 A 80%以上(概ね達成) B 60～80%(一定の成果がある) C 40～60%(さらなる努力が必要) D 40%以下(現状が改善されていない)

【全日制課程】

年度当初					評価結果()月		
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
学校の魅力化・特色化の推進	国際バカロレア(I・B)教育の実施と波及 (グローバル人材育成重点校) GP2・CP1	・1期生、2期生ともに前向きに学びに取り組んでいる。 ・1年次生の全員がLHR・総合探究の時間でコア科目を広げた講座を受けている。 ・令和6年度について、図書館の活用指標(来館者数×貸出冊数)を1000としたところ、この指標を上回った日は16%だった。	・80%以上の生徒がATLスキルを習得した上で、同スキルを活用しようとしている。 ・コア科目については、生徒がその学習意義を理解し前向きに取り組んでいる。 ・各教科3人以上の教員がIBワークショップを修了するとともに、DP授業に係る理解を深められている。 ・図書館活用指標を600に再設定し、この指標を上回る月が7ヶ月以上となっている。	・各授業担当者が、各教科のガイドに基づきATTを踏まえた授業を実践する。 ・教科横断の会(M&I)で、それぞれの学年の授業担当者の協働設計を推進する。 ・先進校視察に教員を派遣するとともに、全教職員対象の校内研修会を開催する。 ・生徒向け図書館オリエンテーションを開催し、図書館の有用性を伝えるとともに、図書委員会の主体的な活動を促進する。			
	生徒主体の探究学習の実践 (探究活動重点校) GP5・CP2	学びのスキルアンケート結果(R6肯定回答変化:4月→11月) 【1年生】(177人/199人 回答率88.9%) コミュニケーションスキル 55.4%→59.8%(+4.5) 自己管理スキル 23.1%→45.0%(+22.1) リサーチスキル 28.2%→56.0%(+27.8) 思考スキル 30.0%→54.8%(+24.8) → 1年生はすべてのスキルにおいて上昇 【2年生】(166人/179人 回答率92.7%) コミュニケーションスキル(※) 84.2%→72.7%(-7.5) 自己管理スキル 21.8%→50.9%(+28.1) リサーチスキル 33.3%→67.1%(+33.8) 思考スキル 34.6%→61.8%(+27.4) → ※探究活動に係る経験値と知見が深まり、生徒の自己評価レベルの基準が上がったことが反映されていると史料	・コミュニケーションスキルの肯定回答が80%以上もしくは有為的な上昇率となっている。 ・思考スキルの肯定回答が60%以上もしくは有為的な上昇率となっている。 ・異文化交流活動の生徒参加が促進されている。 ・地域社会、地元大学、関係企業と連携した探究的な学びが展開されている。 ・現実社会の諸課題について生徒が当事者意識を持ち、課題解決に向けて挑戦していく意欲が育成されるとともに自己のキャリア形成とのつながりが持っている。	・探究学習について、生徒自身がPDCAサイクルを回す支援を継続する。 (例)・iFLATsのスキルに関する調査をととして探究学習の成果を測定する。 ・学校が独自で作成したアンケートをもとに定期的に振り返りを行う。 ・iFLATsとの定期的な意見交換をととして、探究学習に係る内容面での継続的な改善を図る。 ・高等学校課事業等を有効活用する等、異文化交流の機会を生徒に積極的に提供する。 (例)鳥取県・米国バーモント州青少年交流事業 ・国際交流事業に参加した生徒の変化変容を適切に評価する。			
	生徒の学ぶ意欲の向上と授業改善(探究活動重点校) GP1・CP1	・令和6年度学校評価アンケート結果によると、「授業に満足している」と回答した生徒比率が83%となっている。 ・各教科でPBLを取り入れ、探究的な学びを推進している。 → 生徒が学習内容を課題解決に活用する意識については十分ではない。 (例) 令和6年度授業アンケートにおいて「学習内容を地域や社会解決に結びつけて考えることができて」と回答した生徒 55% ・主体的に学びを進められている生徒の育成が急務である。 (例)令和6年度授業アンケートにおいて「自分で計画的に学びを進めている」と回答した生徒 53%	・各教科において、生徒の学ぶ意欲が向上している。 ・生徒の発達段階に応じた学習班編成を有効活用した授業が展開されている。 ・令和7年度学校評価アンケートにおいて「授業に満足している」と回答する生徒比率が90%以上となっている。 ・総合的な探究の時間・LHR・学校行事が、生徒にとって充実したものになっている。	・現行教育課程を検証し、改善できるものは次年度に改定する。 → 抜本的な改訂については、R9年度を目指し、今年度から検討に入る。 ・課題解決型授業及び主体的な学びに係る校内研究授業や公開授業を実施し、授業改善に努める。			
	学力の伸長による進路目標の実現 GP5・CP3	・主体的な学習者の育成を目指して学年、教科、分掌等が連携して取り組んでいるが、基礎学力の定着が不十分なために進路目標を下げざるを得ない生徒がいる。 ・学力の多層化が顕著であることを踏まえ、生徒個々の発達段階を適切にみとった指導が必要である。 ・生徒自らのキャリア形成について考える機会として、首都圏研修、アントレプレナーシップ講演会、東大会、医学会等の取組や進路学習を設定している。	・様々な観点から自らのキャリア形成に適した進路目標を設定し、その実現に向けて計画的・主体的に学習に取り組んでいる。 ・自己の進路目標の実現に資する確かな発揮学力を習得している。 ・高い志を掲げた上で、様々な学習活動や課外活動に意欲的に取り組んでいる。 ・令和7年度学校評価アンケートにおいて「倉吉東高の進路指導は充実している」と回答する生徒比率が90%以上になっている。	・講演会や進路学習等の内容をさらに充実させることをととして生徒が自らのキャリア形成について深く考える機会を提供する。 ・生徒との個別面談を充実させるとともに、果敢な探究活動を奨励することをととして、自らの進路目標の達成に向けて主体的に取り組む姿勢・態度を育てる。 ・進路検討会や学年会等を有効活用し、生徒個々の進路目標実現に向けた具体的な方策を協働的に講じる。 ・進路指導テストや校外模試等の結果を授業デザインや課外指導に往還的に活用し、生徒の学力向上を図る。			
	国際交流の充実 (グローバル人材育成重点校) GP3・CP4	・アジア圏内の学校と連携し、生徒が共同研究を行っている。 (連携先)セントジョセフ高校(シンガポール)、安養高等学校(韓国)、桃園高校(台湾)、バギオ大学附属科学高校(フィリピン) ・英語による「発表」「やりとり」「ディベート」等に係る指導が、全学年で計画的に実施されるまでには至っていない。 ・英検の本校準会場受検廃止等を踏まえ、生徒が実践的な英語力を伸ばすための学習モチベーションを戦略的に引き上げる工夫が必要である。	・生徒の英語によるプレゼンテーション能力及び交渉力(スキル)が向上している。 ・CEFR:B2(英検準1級)レベルが5名以上、B1(英検2級)レベルが80名以上になっている。	・バギオ大学附属科学高校生徒を本校に招待し、英語による模擬国連や異文化交流活動を実施する。(予定:9月) ・生成AIを利用した言語活動の充実に取り組むとともに(国費事業を活用)、英語教員研修会を実施し、授業における英語のやり取り等を効果的に導入する。 ・英検の他、IELTSやTOEFL等の受検を奨励するとともに、受検・合格状況について検証する。			

学校の諸活動の推進・発信と中高連携の強化	生徒の人間性の涵養に繋がる学校行事・部活動の実践GP4	- 令和6年度末でテニス部とアーチェリー部を廃部としたものの、全校で91.1%の部活動加入率となっている。(令和7年4月末現在) - 生徒会部が所管する学校行事について、生徒会事務局や学園祭実行委員会を中心に多くの生徒が主体的に関わろうとしている。 (例)令和6年度学校評価アンケートにおいて「学園祭を中心とした生徒会活動に誇りが持てる」と回答した生徒 91% - 令和6年度については各種中国大会に多くの部が出場するとともに国民スポーツ大会クライミング競技の部での入賞があった一方で、これ以外に全国大会で活躍する部がなかった。	- 部活動が生徒の自己表現の場であると同時に主体性や自律性を育む場となっている。 - 部員全員を巻き込んで向上心溢れる集団に成長している。 - 令和7年度学校評価アンケートにおける生徒会活動や学校行事に係る項目において、肯定的に回答する生徒比率が90%を超えている。(項目例) - 学園祭を中心とした生徒会活動 - 部活動は充実している	- 部活動において生徒の自立と自律を促す働きかけを続ける。 - 特に部室管理の点では、部員一人ひとりの意識と自覚を高め規律を守るよう、指導の機会を積極的に創出する。 - 学校行事の実施にあたり、関係する生徒を中心に事前の相談や調整を重ねた企画・運営に努める。 - 学校行事や部活動を通じて、自己の成長が感じられるような「競い合って成長する機会や「互いに称えあい労う機会」を設けることをとおして、生徒に共感する感性と力を育てる。		
	育友会・同窓会・地域との連携	- 育友会総会に230名の保護者が参加。本校教育活動に係る保護者の興味関心には高いものがある。 - 育友会のどの事業においても、活発な活動が展開されている。 - 同窓会総会並びに支部総会も開催され(東京、東海、関西等)、活発な活動が展開されている。 - 育友会各事業並びに同窓会をとおして、本校における国際バカロレア(IB)教育の進捗状況が報告されている。	- 育友会総会の保護者参加者数が250名以上となっている。 - 保護者と教職員が一体となって生徒を学習面、生活面で具体的に支援できている。 - 同窓会総会参加者数が100名以上となり、相互の親善が図られるとともに、各自の向上発展に寄与し、母校との連携がより密になっている。	- 育友会並びに同窓会役員と学校とが十分に連携し、育友会事業や同窓会活動を活性化させる。 - 育友会及び同窓会の諸活動をとおして、本校における国際バカロレア(IB)教育の魅力や特徴に係るPR活動を活性化させる。		
	学校に関する情報の発信と中高連携の強化	- 学校ホームページにおけるリアルタイムかつ頻繁な記事発信について、保護者並びに学校関係者から高く評価されている。 - 本校SNSフォロワー数も増加傾向にあり、2400人を越えた。 - 令和6年度育友会総会開催日の午前中、中学生及び保護者を対象とした授業公開を行ったところ、多数の参加者を得、盛況であった。 - 参加者アンケート結果によると、中学生体験入学(7月下旬)は、本校生徒をチューターとした校内案内や座談会について前向きな意見が多い等、概ね好評であった。	- 本校ホームページがより魅力的なものとなり、内容面においても情報発信力が向上している。 - SNSにおいても、本校教育活動に係る情報がリアルタイムで発信されている。 - SNSフォロワー数が2600名以上になっている。 - 令和8年度入学者選抜における総志願者倍率が1.0倍以上となっている。 - 中学生体験入学参加者数が320名以上となっている。	- 本校の魅力や特色のPRIに資するリアルタイムな情報発信に努める。 - 育友会広報委員会と連携し、本校教育活動に係る保護者の一層の理解と支援を促進する。 - 中学生体験入学や高校説明会の内容のさらなる充実を図る。 - 中学生目線をより重視する等、本校国際バカロレア(IB)教育の魅力・特色を戦略的に発信する。		

【定時制課程】

年度当初					最終評価結果()月		
評価項目	具体的項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	次年度に向けての改善方策
定時制教育のさらなる充実	全ての生徒への安心安全で居心地のよい環境の提供	- 授業規律が守られるとともに、ICT活用も含め生徒の学習到達度に合わせた学習内容となるよう工夫した結果、生徒のやる気と集中を促せている。 - 生徒会執行部が中心となって運営される各種行事が、学校生活を継続する上で生徒の励みになっている。 - 毎日の打合せで生徒の情報を共有することをとおして、生徒個々に適した統一感のある迅速で適切な指導につなげられている。 - 特性を持つ生徒への合理的配慮については検討の余地がある。	- 規律ある学習態度が維持され、学習の意義や目的を理解した上で意欲的に学んでいる。 - 安心安全な環境のもと、生徒全員がルールやマナーを守り、他者を尊重することができている。 - 生徒間の相互理解や連帯感が高まり、自己の成長を感じられる雰囲気醸成されている。 - 教職員と生徒の間に良好な信頼関係が構築されている。	- 授業のユニバーサルデザイン化、分かりやすい教材の工夫、Chromebookを活用した個別最適化された演習等を取り入れ、理解を促す指導を行う。 - 生徒が提案し、主体的に運営する生徒会活動となるよう支援する。 - 個々の生徒が抱える問題の解決に必要な支援や指導法について専門機関等との連携を強化するとともに、講師を招いた教職員研修等を充実させることをとおし個に応じた支援を行う。			
	生徒の人的成長や進路目標の達成のための教育活動のさらなる充実	- 授業に真摯に取り組み、学校行事や生徒会活動を肯定的に捉え、進路目標の実現を目指して学校生活と就労の両立に努めているが、学び直し途上の生徒も多い。 - 生徒会役員に率先して立候補する生徒も多く、生徒会執行部員は教職員の協力を得ながら各種行事の企画・運営を行っている。 - 各種講演会、校外研修、職場見学、体験活動等を実施し、生徒の進路意識が高まるように促すが、具体的な進路目標を立てる時期が遅い傾向にある。	- 授業に対する生徒の理解度や満足度が高く、それが学力の伸長につながり、一人ひとりの進路目標が実現されている。 - 生徒が自己と他者を大切にし、人間的に成長するために、学習活動に加え、学校行事や生徒会活動に意欲的に取り組んでいる。 - 様々な教育活動や社会体験をとおして、生徒が自尊感情を高め、社会で自立していく上で必要とされる力を身につけている。	- 学び直しを取り入れながら、生徒の学習理解度を適切に把握して授業を進め、個に応じた学習内容を提供することをとおして学習意欲を促し、満足度の高い授業を行う。 - 生徒が主体的かつ意欲的に学校行事や生徒会活動等に取り組める環境を整える。 - 各学校行事の内容を見直し、生徒が自身の生き方・あり方を考え、自己実現に向けて具体的に取り組むきっかけになるよう工夫する。			

【全日・定時制課程共通】

年度当初					最終評価結果()月		
評価項目	具体的項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	次年度に向けての改善方策
生徒支援の充実と業務改善の取組	環境の変化、ストレス、人間関係等に対応した生徒への心身両面でのサポート	- 様々な課題を抱えることから心身のバランスを崩し、登校できない、登校しても教室へ入りづらいという生徒が散見される。 - ポスト・コロナにおける学校行事等の再開に伴い、経験値が浅いのには無理をしてしまったり、入学前段階における集団活動の経験の乏しさに起因すると思われる疲労感や不安を抱える生徒も散見される。 - 令和6年度学校評価アンケート(生徒)において「倉吉東高の先生方は信頼できる」と回答した生徒が88%、保護者は90%となっている。 - 令和6年度学校評価アンケート(保護者)において「倉吉東高は生徒や保護者の思いをくみ取って教育活動をしている。」と回答した保護者は87%となっている。	- 生徒が抱えている課題や悩みについて教職員が正確に把握し、生徒とともに解決策を考えることができている。 - 教職員が様々な場面で個々の生徒の情報を共有し、外部関係機関等と連携しながら、組織的な支援体制を構築できている。 - 令和7年度学校評価アンケートにおける「倉吉東高の先生方は信頼できる」「倉吉東高は生徒や保護者の思いをくみ取って教育活動をしている。」と回答する生徒並びに保護者比率がそれぞれ90%以上となっている。	- 生徒や保護者との面接結果やアンケート調査結果並びにhyper-QU結果等の検討を通じて、生徒の悩みや生徒が本当になりたい姿(自分)についての理解を深める。 - 教員間の連絡・連携を密にし、必要に応じて医療機関や福祉機関、行政機関と連携を取り、専門家の同席のもと支援会議を開く等具体的な支援計画を策定するとともに、実行と振り返り、改善のサイクルを効果的に回していく。			
	・業務内容の見直し ・長時間勤務者の解消	- 令和6年度全日制について、時間外業務の年間合計が360時間を超える教職員が17名となった。(令和5年度比+6名) - 定時制では、学校行事や校務分掌のバランスが図られており、時間外業務は少ない状況にある。	- 時間外業務の年間合計が360時間を超える教職員が10名以下となっている。 - 週休日の休養日設定や適切な活動時間等、本校における部活動の活動方針がすべての部活動で守られている。 - 業務内容を精選し、各分掌及び学年で業務カイゼンに着手できている。	- 時間外業務、部活動の計画・実績とも、管理職が積極的に声かけをするとともに、適宜支援・指導する。 - 業務カイゼンに係る臨時職員会議を開催し、コンセンサスを得ながら「できることから」具体的なカイゼンに取り組む。 - 月に1～2日、ノー会議DAYを設定する。			